



## 『防災講演会』のご案内

NPO 法人都市災害に備える技術者の会では、防災講演会を下記のとおり開催いたします。

今回は大阪府高石市の阪口伸六市長をお招きして「ピンチはチャンス！防災力ナンバーワンのまちづくり」と題しましてご講演を戴きます。

臨海石油化学エネルギー供給基地を抱えた高石市の南海トラフ地震津波に対する取組について『やる気になれば出来る！』有言実行の『防災ナンバーワンのまちづくり』について熱く語られます。

日常業務多忙のこととは存じますが、万障お繰り合わせの上ご参加いただきますようご案内申し上げます。

記

主 催：NPO 法人 都市災害に備える技術者の会

後 援：日本技術士会近畿本部建設部会

日本技術士会近畿本部防災研究会

泉南市防災技術者の会

日 時：平成 29 年 7 月 8 日(土) 14 時 00 分～16 時 30 分

場 所：兵庫県神戸市 中央区元町通 4 丁目 2-14

こうべまちづくり会館 3F

電話：078-361-4523



テーマ：『ピンチはチャンス！防災力ナンバーワンのまちづくり』

講 師：阪口伸六氏（高石市長 大阪府市長会会長）

参加費：無料

申込期限：特にありませんが会場の都合により先着 50 名とさせていただきます。

## 7 月 8 日『防災講演会』参加申込書

NPO 法人都市災害に備える技術者の会 防災講演会に参加申し込みます。

申込日 平成 29 年 月 日

|         |  |      |                 |
|---------|--|------|-----------------|
| 氏名      |  | 所属   | 主催・後援団体所属の方のみ記入 |
| 勤務先     |  | 電話番号 |                 |
| メールアドレス |  |      |                 |

【申込先】NPO法人都市災害に備える技術者の会 事務局 太田宛

E-mail：[office@toshisaigai.net](mailto:office@toshisaigai.net)

Fax：078-907-3123

## 【防 災 講 演 会】

### テーマ「ピンチはチャンス！防災力ナンバーワンのまちづくり」

～高石市長 阪口 伸六～

#### 【経歴】

昭和31年 大阪府高石市生まれ

清風南海高等学校を経て同志社大学卒業後、アパレル商社に勤務。昭和62年高石市市議会議員に初当選。平成15年高石市長に当選し、現在5期目。

泉州市・町関西国際空港推進協議会会長、石油基地自治体協議会副会長を務め、平成29年5月には大阪府市長会会長に就任。高石市だけでなく泉州、大阪、関西、日本の幸せのために奮闘中。



#### 【概要】

高石市は人口約5万8000人、面積11k㎡のコンパクトなまちであります。特に市域の約半分6k㎡は高度成長期にベッドタウンとして急速に市街化した密集した住宅地、残り5k㎡が臨海コンビナートで、石油精製プラントや液化天然ガスから都市ガスを製造し近畿一円に供給する施設、また同発電所も稼働し電力供給し、また石油化学の大手企業の西日本最大級の工場など、一大石油化学エネルギー供給基地を形成し、現在も、製造品出荷額も9700億円と、堺、大阪、東大阪、八尾市について第5位で、活発に操業しています。

そんな特徴ある都市に、あの東日本大震災以降、惹起された南海トラフ地震津波に対する防災対策の強化という重い課題が突きつけられました。

平成15年当時は、学校耐震化も全国ワースト1と、公共施設も耐震化が遅れており、昭和40年代に建設された住宅も老朽化が進んでいました。

また、バブル崩壊、地価の下落や税制改正による市税収の激減、経常経費の膨張等により厳しい財政難に直面するなか、折りしも、当時推進されていた平成の大合併に際し、市民は住民投票で自主自立を選択し、同市は懸命に財政再建を進めており、防災対策に向けた予算の確保もままならない状況でありました。

そんな、二重苦三重苦のような状況で、阪口市長以下職員市民、企業などが一丸となって防災ナンバーワンのまちづくりを目指して、一歩ずつ、しかし着実に取り組んで行ったのであります。

昨年11月に実施した第6回目の総合避難訓練では、人口の2割を超える1万2,000人以上の方々が参加されました。耐震化を完了した市内中学校では中学生自身が小型可搬式ポンプを使う訓練を行い、高台移転で旧体育館を廃止し、国の緊急防災交付金の支援を得て平成27年3月に竣工した、防災機能を有する総合体育館「カモンたかいし」では市内医療機関の医師によるトリアージを行いました。

臨海部では企業が自主的に建設した津波避難タワーを活用した訓練など、地震津波を想定した本格的な訓練が行われ、また、とくに昨年はその後11月5日に、通称“ドラム缶作戦”と言われる、災害直後のBCPを想定した石油等の被災地への搬送訓練を、臨海部の石油精製企業と自衛隊の協力により実施されました。

まさにピンチはチャンス、そのものであります。

「やる気になれば、出来る！」有言実行の「防災ナンバーワンのまちづくり」について、阪口市長が熱く語ります。乞うご期待！